

●鹿内 博 青森市長に聞く—— ねぶたと街づくり 「ねぶたのまち・青森市」の 知名度を大いに活用

ねぶたの活用は 正しい伝承があつてこそ

市長になって驚いたのは、県外に出かけた際、名刺を出さなくても、「ねぶたの青森市ですね」と言ってもらえることです。多くの市町村は、「私たちの街は何々の街です」と言えるものを探したり、つくり出したりすることに苦勞しているわけですが、青森市はそれが不要ない。これは大きいことです。企業誘致などで青森市をPRする際も、ねぶたという話の導入口があるので他のさまざまな魅力をアピールしやすいわけです。「実はねぶただけじゃないんです。あれもありません、これもありません」という形です。ねぶたの話から棟方志功の話、囃子の話から津軽三味線の話と、ど

うも元気になる。我々が伝承してきた文化は、全国にいるいるところで、本当に賞められていっている。私も市長になるまではあまり知りませんでしたが、このことは市民に広く知っていただきたいですね。

祭りの魅力をなす要素を 全てもっているねぶた

県外でのねぶたの熱狂は、本当にすごいものがあります。沿道の子どもたちが勝手に入ってきて一緒に跳ねまわる。青森出身の人が家族や友人と「久しぶりだねぶたを見ながら飲もうや」とやってくる。そこには、ある意味、ねぶたの楽しみ方の本来の姿がある気がします。ねぶたの大きな魅力の一つは、何より老若男女、ありとあらゆる人が参加できることにあります。ほとんどの祭りは、神社の神

事として行われますが、ねぶたは、民衆の中から生まれ、市民が自由に発展させてきた。だから、地域でも、企業でも、愛好者が集まってもできる。それが、これほど長いあいだ続いてきた理由であり、全国に広がってきた理由なのではないでしょうか。

そして、ねぶたには、祭りの楽しい要素がすべて凝縮されています。囃子ひとつとっても、笛、太鼓、鉦(かね)が入っていますし、跳ねるという踊りの要素がある。さらに、人形をつくるという芸術性ももち、しかもそれが動くので、それぞれの場所で楽しめる。昼も夜も行われる。こうした要素が渾然一体となつて、理屈ではなく人の血を沸き立たせる不思議な力をもつ。それがねぶたの最大の特徴であり、地域に関係なく人を熱狂させる魅力なのだと思います。

付があつてこそその「ねぶたの街」なのです。そのために大きな役割を果たすのが「ねぶたの家・ワッセ」です。ワッセは、単なる観光施設ではなく、保存・伝承の拠点と位置付けています。また通年観光の受け皿でもあるわけですが、これもまた一年中いつでもねぶたが見られますというのを切り口にして、「でも、やっぱり本番ですよ。ワッセのねぶたは5台だけで動きませんが、本番では子供ねぶたも含めて40台近いねぶたが一緒に動くんですよ」と祭り本番への集客につなげていく、それが大事だと思っています。

県外への広がり 遠征の意義

県外への遠征についても、まずは、

その地域の皆さんに楽しんでいただく、「元氣になつていただく」ということが第一にあるわけですが、やはりそれに止まらず、ねぶたをきっかけとして、それぞれの街に青森市をPRする大きなチャンスであるところからいいます。ですから、遠征から生まれた交流の中で、ねぶたの青森市にはりんごもホタテもあります、企業進出の土地もあります、大学もあります、と全てを売り込んでいくことが重要だと考えています。

また私は遠征するたびに思うのですが、「ねぶたは素晴らしい」「青森がんばれ」と言ってもらつて、私たちのほうが元氣や勇氣をもらっている気がします。それで私たちはねぶたにいつそう誇りをもちたいことができたり、また他の地域へもかけようと

●ねぶたをもっと知ってほしい



「ねぶたガイド隊」と「おべさま」を誘導する今村孝さん

「ねぶたガイドでは、できるだけ作業の各段階が見られるコースを組み立てます。おべさまでは、構造的なことの質問が多いですね。ねぶたは全国に誇れる祭りですから、知らない人ももちろん、知っている人にもっと知ってもらいたい。何かしら発見して、「そうなんだ」と言ってもらったときが一番うれしいですね」

「制作工程や、構造などを知ること、祭り本番の楽しみ方は大きく広がりますが、実際のねぶた小屋で制作者が説明はできないわけです。しかも口吻を使っていますから、安全を確保しながら説明してくれるボランティアガイドの役割は非常に大きいのです」と鹿内市長。「ボランティアで活動してくださる皆さんは、やはりねぶたに誇りをもっていらっしゃるのだと思います。「私たちの祭りはすごい」という思いですね。ですから、ガイドの方が増えるということは、それだけ市民の間で、ねぶたへの愛着と、正しい伝承が広がっているということだと思います。ワッセランドのねぶたガイド隊も、ワッセの「おべさま(物知り)」もそうですが、若い人も、女性ももっとたくさんの人にガイドになっていただきたいですね」と話していました。

青森市役所 本庁舎

〒030-8555 青森市中央1-22-5 ☎017(734)1111(代)
【柳川庁舎】〒038-8505 青森市柳川2-1-1 ☎017(734)1111(代)
【浪岡庁舎】〒038-1392 青森市浪岡大字浪岡字稲村101-1 ☎0172(62)1111(代)

<http://www.city.aomori.aomori.jp/>



青森ねぶたが他都市に出かけて運行することを一般的に「遠征」と言います。また遠征とは別に、ねぶたを探り入れた新しい祭りが全国各地で誕生し、地域のお祭りとして根付き始めています。

(上)今年5月、盛岡市で開催された「東北六魂祭」。(下)昨年8回目を迎えた東京都世田谷区・桜新町商店街のねぶた祭り。例年、近隣の大学生らが制作したサザエさんねぶたと、青森ねぶたの競演が見られます。

ボランティアガイドは ねぶたへの誇りの象徴



鹿内 博 青森市長